

平成27年度 厚生常任委員会管外視察の概要

- 視察日時 平成27年11月4日(水)～6(金) 2泊3日
- 視察者 厚生常任委員(6名)
高木健次(委員長)、橋口海平(副委員長)、岩中伸司、藤川隆夫、岩田智子、松野明美
- 視察先 沖縄県
①沖縄県議会 ②沖縄県立中部病院
③浦添市医師会 ④群星沖縄臨床研修センター
- 視察趣旨 沖縄県では、戦後の医師不足から、医師の確保・養成に力を入れてきた経緯があり、臨床研修のシステムは全国から注目されている。
また、離島やへき地を多く抱えている背景もあり、総合診療医の派遣や代診医の派遣等、支援体制も充実している。
県議会としても、本県が抱えている医師不足やへき地医療問題の観点から、今後の委員会審議の参考とするため、今回の視察を実施。

■視察の概要

①沖縄県議会

沖縄県が地域医療振興協会に委託しているゆいまーるプロジェクトについて、視察を行った。

へき地医療支援機構の運営により、離島診療所への代診医派遣の援助等を行われていた。

コンピューターを用いた遠隔会議システムや遠隔医療での支援、離島医療支援ネットワークによる支援等を行っている。

また、自衛隊、海上保安庁、私立病院、NPO法人の4つの機関によるドクターヘリでの支援などがあった。

ドクターバンク事業により、全国から登録された医師を代診医や長期・短期の専門医として派遣している。

特に、沖縄を希望する者が多く、ほとんどが県外からの登録になっていることについて、活発な意見交換が行われた。



② 沖縄県立中部病院

全国でも注目を集めている臨床重視の研修プログラム等について視察を行った。

1次医療から3次医療までを担う、診療科26科の総合病院であり、3交代制により24時間医療を行っているとのこと。

提携先のハワイ大学にも研修に出すなど、指導医の養成も自前で行うシステムが出来上がっていた。

研修の最後の年には離島へ行くことを義務化するなど、離島支援も行われていた。

研修修了後、65.1%（県内出身87%、県外出身47%）が沖縄県内に残り、医療に従事しているとのこと。

指導医からだけの指導ではなく、屋根瓦方式という1年目の人を2年目の人が教えるという独特の方式による指導のシステムは大変参考になった。



③ 浦添市医師会

在宅医療体制の整備を推進する在宅医療ネットワーク等について視察を行った。

浦添市医師会と浦添市が緊密に連携し、在宅医療を受けたいが在宅主治医を探すことが困難な患者や家族に対し、在宅主治医を紹介する事業として展開されていた。

医療・介護連携の課題抽出と対応策を協議するグループワークの継続、連携支援センターでの相談受け付け、多職種研修会開催の継続など、浦添市医師会が中心となり、連携を重視した事業を積極的に展開されていた。



④ ^{むりぶし} 群星沖縄臨床研修センター

臨床研修病院群プロジェクト^{むりぶし} 群星沖縄について視察を行った。

民間病院が連携して臨床研修プログラムを組み、研修医重視の臨床研修を行っている。

運営資金は協力病院から募り、公的資金を入れないことで、自由な研修プログラムが組んでいるとのことであった。

8基幹型病院、9協力型病院、10協力施設から成る病院群による研修プロジェクトであり、民間主導でのプロジェクトは大変参考になった。

